

平成 31 年度 第 4 回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和 2 年 3 月 5 日（金）
◎開催日時 令和 2 年 3 月 9 日（月） 午後 3 時 0 0 分～午後 4 時 2 8 分
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席委員 笠原教育長、北原教育長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員、黒河内教育委員
◎欠席委員 なし
◎出席職員 馬場教育次長、福澤学校教育課長、北林生涯学習課長、捧企画調整幹、
早川企画調整幹、北澤指導主事、小松指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

教育次長

定刻となりましたので、ただいまから今年度第 4 回目の総合教育会議を開催してまいります。
始めに市長からご挨拶をお願いいたします。

2 あいさつ

市長

3 月 3 日から小・中学校が休校ということで、対応が大変だったと思います。後ほど今の子どもたちの様子がどうなのかお聞きしたいと思います。貧困家庭のお子さんが食事をどう受け取るのかとかいう、行けないところがある中でどうやって過ごしているのか。また宿題等をどういうふうにしているのか、この状態がいつまで続くのかわからないことがあります。非常に心配であるということはもう日本中各地で同じであります。特に終息の見込みがあるのかないのか、またさらに広がっていった場合に、経済に対しても大変な心配もあるのですが、学校現場においても、これからの指導の仕方等、非常に不安材料もたくさんあります。そうしたことを全て解消とはいかないまでも、最低限のところ留めておくということが大変重要だと思います。そんな観点からも意見をいただければと思います。

それから春の高校大学の中止ということになりまして、先ほど報道機関やとか県警等に状況説明してまいりました。やむを得ないというのが大方の見方ですけども、来年は何とか良い大会にしようというようなお話をいただきました。限られた時間の中ではありますが、協議事項に沿いながら進めていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

教育次長

ありがとうございました。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

教育長

市長にはこの会を持っていただき、ありがとうございます。今の市長のお話の中にありましたけれども、新型コロナウイルスに関わる様々な対応について、幸いだと思われるところは他の地域、非常に大変なところがあるわけで、それは私も共通するところがございますが、皆さんが落ち着いて受け止め、こうして行こう、そのようにしていただける、そのように感じているところがございます。卒業式入学式を目前に控えています。子どもたちにとって、少しでも良くなるよう努めてまいりたいと思います。

今日は協議事項を 2 つ添えていただきました。子どもの育ち学びを包む環境として地域のありよう、また食の取り組み、そうした面から考えることができるかと思います。

2つ目の内容は、教育委員会を運営していく中で、1人に確かに届くということを心がけてまいりたい、そのように思いながら臨ませていただきたいと思います。限られた時間でございますがどうぞよろしくお願いいたします。

教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。
ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

○子どもたちの現状について

市長

子どもたちの現状はどうなのかっていうのをもしわかる範囲で結構ですので出してもらいたいと思います。

指導主事

休校に至る前の段階で、休校に対する備えよということは発信しており、1週間分ほどの宿題、家庭学習等の準備をするよう、教育委員会として出しておいたところです。政府の突然の発表でああいう形になったわけですが、各学校にはあらかじめ対応をしておいて欲しいという話をしていたので、月曜日登校で火曜日から休みというような対応になりました。

1週間たったわけですが、各学校からは全部の学校ではないんですけれども散発的に時間をずらしての登校日を設定したり、市内を巡視して子どもたちの情報を把握したり、電話連絡により子どもたちの掌握に努めているところです。

家庭訪問については校長会でも話が出まして、できるだけしたい方法でいるんですが、各学校年度末で費職員の旅費が底をついており、教育長はじめ上伊那市町村教委連絡協議会、それから私も南信教育事務所へ赴き、増額をお願いしているところです。具体的な回答が教育長に来てはいるかわかりませんが、この1ヶ月間、学校が休校になるに伴って部活動手当などか様々な旅費が残る見通しが立ちそうなので、何とか手当ができそうな話があり、ゴーサインが出ると家庭訪問で子どもたちの様子を、先生方が見に行ける状況が出でくると思います。

市長

家庭訪問の旅費は、市で出すことはできないですか。

教育次長

県の職員の県費の職員の旅費であり、基本的には県の対応となります。

市長

非常事態の中で先生が家庭訪問して様子を見たり指導したりしたいとのことであれば、県がどうなど行っていられない。何百万円もかかる話ではないと思います。

指導主事

旅行命令出すにはその裏打ちがないと出せないことがあります。県教委との協議になると思いますが、大変ありがたい言葉です。

教育長

簡単に言うと旅費の方が出るというような格好で手続きをしながら進めることになります。

市長

すぐに手当てして、県と打ち合わせして、最終的に県が駄目ですとなればできない。

教育長職務代理者

とてもありがたいお話で、見通しが立つところです。家庭訪問をする話が進んでいるところもあり、3月2日に市町村教委連絡協議会と県との懇談ありまして、この旅費について必要なので、手当していただきたいと、上伊那からも要望しています。まだ回答はいただいておりませんが、県へ確かに伝えていただいたということで、検討いただいています。

市長

財政と話をしてすぐにできるようにしてください。

教育次長

そういった裏付けがあれば実施できますし、後々県で出していただければそれはそれでよいと思います。

市長

そういう状況があれば、県の話ではなく、すぐに相談に来てください。その他どうでしょうか。

生涯学習課長

学童クラブの状況は、休校した翌日からの学童クラブを午前8時半から夕方の6時半まで開いています。指導員の先生にも限りがある中で、学校の先生たちにご協力をいただいて、午前中は学校で見られている状況です。人数的には、通常の学童クラブ、それから春休みの学童クラブに申し込みをされた方が合計で820名ほどいらっしゃったのですが、3月5日現在で、実際利用している方は353名と予想していたよりもだいぶ少なかった状況です。その理由の分析はまだできていないのですが、おそらく保護者の家庭の中でその集団生活に行くリスクを考えて、家の方で極力見ているというような状況もあると思います。いずれにしろ今回学校の先生方がそれから学校開放で教室を貸していただいているので、助かっています。

市長

学童クラブの場合、おやつ等は足りていますか。

生涯学習課長

大丈夫です。

市長

学童クラブの中で、困っているようなことはないですか。

指導主事

見学をすると、学校を使っていることから、学童クラブの建物の中だけではびっしりですが、

学校教室を使っていますので非常にゆったりした空間の中で、各校が時間割を組んでいます。8時半から10時半までは宿題で、次の時間がiPadを使った自主学習で、午後1時間わかれたところで体を動かす、そういうカリキュラムの中でやっていて、大変良い表情で、生き生きと子どもたちがやっていました。

これで2週間目に入ってきますので、今週はどんなふうになっていくのかなと、ストレスが溜まったりすることもあるかと思いますが、学校の先生方がうまく散らしながら、間隔をとりながら、子どもたちも大変良い表情で学んでいます。高学年は非常に少なく、1年生から3年生までが多い状況です。

市長

高学年は家にいるということだと思います。

指導主事

校長たちと話をしましたが、本当に5割ぐらいは控えていたり、親戚に預けていたりしているのか、まだ詳細に分析ができていないのですが、予想より少ない状況です。臨時の校長会を断続的に何回も開いて様子をお聞きしていますが、その時にはたくさん来るかもしれないということを懸念していましたが、逆にちょっと少ない、控えているというか、この状況の中で、家の中にいる子も多いのかなと思っています。

市長

また様子を見ながら、状況によってはそういうふうに会議開いて、つないでもらえればと思います。この件について何かあればお願いします。

田畑副技官

学童クラブにも行けなくて、家が貧困で家の中に閉じこもっている子たちは、子ども相談室の方に電話が来ますので、私達の方で家庭訪問により安否確認を行い、おやつを持っていくという家庭があります。学童に行くためにはお弁当持って行く必要があり、持っていけない子たちのために、今まで子ども食堂を利用していたお子さんについては、社協が子ども食堂の予算でお昼を作り届けています。その中でも学童に入れない貧困家庭の子ども5名は、子ども相談室で預かることにして、学習を見たり、お昼を社協からいただいたりして、数時間見守ることにした子どもたちもいます。

市長

たくさんありがたいことです。そういう子どもたちもやっぱり皆困っているわけだから、支援が届くと本当に助かる。

教育長職務代理者

修学旅行は4月を予定していましたが、全校で延期となっており、全県的にそういう動きがあります。普通のキャンセルですと、多分400万円など、大きな額になってしまうので、3月2日の市町村教委で確認をしながら、県の方へは業者と雇用調整助成金と関係がありますので、こちらの方でぜひ補填していただくように、保護者に負担が行かないようにと旅行業者へお願いしているところです。

市長

卒業式はどうですか。

教育長

17日と18日に予定しています。小・中学校同じ対応をしようということで、それぞれの学校から情報出しているところです。

市長

卒業生だけで実施ですか。

教育長

基本的には卒業生と保護者と考えています。来賓は連絡を差し上げて今回なし、教育委員会から1名行かせていただくということにしています。在校生は参加しないというのが現時点での案です。この後、状況が大きく動いたような場合は、若干の修正を入れる可能性はあります。

市長

在校生の送辞はなしですか。

教育長

それは学校で考えていると思います。全体で確認した確認事項に含めていません。式次第については大幅に簡略化する方向で、教育委員会からの挨拶もなしとしています。

市長

はい。この件よろしいでしょうか。ありがとうございました。

(1) 「暮らしのなかの食」検証と総括について

市長

それでは協議事項の「(1) 「暮らしのなかの食」検証と総括について」をお願いします。

教育長、学校教育課長

「暮らしのなかの食」検証と総括について説明

市長

取り組みの様子について写真を含めて見ていただきました。この暮らしのなかの食は、5年経ちました。内山先生のおっしゃる厚みや広がりというような表現がありましたが、そのことは学校現場でも感じています。これから先どういうふうな形にさらに進化させていくのかという大事なところだと思います。子どもたちの成長の中で、暮らしのなかの食の取り組みは、ごく普通のカリキュラムというか、その場として続けてもらいたいという思いがあります。小学校一年生から始まってくれば、6年生、中学3年まで行くと、かなり本格的な農業というのを9年間経験できるとの思いがあります。

一方では、物を大事にする、命のこともあります。そういうことが自然に身についてくることが狙いとしてはあります。そのようなことを含めて、暮らしの中の食に必要なものを加えていくなど含めてご意見をいただき思います。どうですか。

教育長職務代理者

市長が言われた命の大切さを大事にということが、一番にはありますけれども、いただく、勿体ないということもあります。1月に発表した各学校全てに共通していることが、嫌いだったり、苦手だったりしたものを食べられるようになったという報告がありました。これはすごいことで、これこそ関わりの中でしかできないことだと思います。5年間のまとめに、こちらが何も言わずに、そのことが出てくることはすごいことだと思います。だから「いただく」、「もったいない」に、「ありがたい」「ありがとう」がここに加わってきたら良いと思います。命については、本当に生きているものを相手にしていますので、例えば学校によっては本当に自分のものとしてやっている学校があり、猿や獣にやられて折れちゃった大豆を本当に涙ながらに抱きながら、まだ起こしてあげれば何とかなる、こういう場面の中で、やっぱり自分で育てなければできない経験だろうと思っています。多くの子どもたちがこういう体験をしたらだろうと思っています。

もう一つは「自分で作った」、「新鮮」という言葉はよく使っていましたが、5年ぐらい前に、お茶の水大学の子たちが東春近へ来てトマトを食べたとき、こんなに美味しいものだと思わなかったと言ったことが忘れられません。子どもたちは、家庭でなかなか経験できない子もいるのですが、経験することができたと思います。

市長

給食の残食が減ったという話もお聞きしています。指導主事の皆さんも現職の頃にもやっていたと思います。印象というか、思い出もあれば出してもらえればと思います。

指導主事

東部中学校でしたので非常に厳しい状況ですが、給食で接する中で、子どもたちが明らかに食に対する関心、関わりは強めています。また、醤油作りや味噌作りという形で、地域の方と関わることで子どもが育っていると思っています。

教育長がおっしゃった伊那市の子どもがあれだけ参加しているのに、全国学調の結果では、地域の将来のことを考える子どもたちが少ないことをどう読んでいいのか、どう分析していいのか、答えがないように思います。

継続的にやってほしいということも大事なことだと思いますが、「暮らしのなかの食」ありきで慢性化しないか、本当に子どもたちが内山先生がおっしゃったような驚きや発見で農に出会っていくにはどうしたらいいか、5年経って、ちょっと惰性になりがちになるので、挫折体験でもいいし、喜び体験を一緒にやっていくか、その2つの課題があると考えています。

指導主事

私は伊那市にはほとんど勤務したことなかったので他所から見ている、皆さん馬鹿なことやっているな、聞いたら花壇を潰して畑にしたりとか、庭木を抜いて畑にしたりとか、そのように思って2年経つのですが、教育長職務代理がおっしゃったとおり、子どもたちが、ここにある4つの学びをキチンとやっている、遠くから見て馬鹿にしてはいけなかったなと反省しているところ です。

ただ、百姓に生まれた私からすれば、この程度の体験では市長が言うような百姓にはなれない、これからだと思います。本当にやるならもっと農家に出てやれば良いと思います。

教育委員

確かに、子どもたちの好き嫌いが無くなったり、そういうこともあると思いますが、そこに関

わった大人たちへの影響がすごくあると思います。

先日、主人が学校でピザ釜を作るということで、建設会社の皆さんが資材を出したり、作り方を指導したりしました。関わりとしてはわずかかもしれませんが、ピザを焼き、子どもたちが振舞ってくれる。それを甲斐甲斐しく見守っている先生たちも立派だったと思います。先生たちに対する大人たちの目が、これは本当に大変な仕事だと変わるように思います。

また、教育委員として客観的に学校を見た時に、家庭でできることは家庭でやらないといけない、全部が全部、先生たちに被せたらできないというところがわかり、お父さんたちも、いつも仕事、仕事というところで、そういう機会に出させてもらい、そういう理解が深まったと思いました。

教育委員

保育園、小学校、中学校と持ち上げている中で、5年経ってくるので、その目的をある程度伝えながら、プログラム自体を整理していくことが大事だと思います。

例えば、長谷の太陽を作った流れは、その時の先生、その時のメンバーのエネルギーが消えてしまえば、やり方が変わっていくっていうのが一つだと思いますが、やはり小中学生が考える暮らしのなかの食と、小学校、保育園の子たちのような暮らしのなかの食は変わってくるでしょうし、先ほどプランターの話が出ましたが、小学生には自分で作ったものが口に入るという体験、例えば花壇をプランターに作り替えて食物を作るという体験もよいのですが、中学生ぐらいになると、農薬の問題、食の安全について、どういうものを自分の体に取り入れることによって自分の体が健康になるのかということに意識を向けてもらい、農作業ではない形の食、自分を作っているという感覚を模索していくことが大事だと思います。

職場体験学習では本格的な農業体験というプログラムもあり、非常に大事であると感じました。各地域の大人の皆さんの協力体制、この地域は本当に素晴らしいですし、全然農業を経験していない先生たちが、いきなり任されて、やってみようということで雑草と戦い、子どもたちの影で支える様子を何度か拝見させていただき、また、本質的に子どもが体験していくことは素晴らしいと思いますが、やはり体験を増す学びの中から子どもたち自発的に行動して、自分ちで畑のスペースで、自分の農園みたいな形にして農業を自分でこうやってみたいという子たちが、どれだけ出てくるのか、そういったことに働きかけていくような取り組みを、先生たちがもう一步先の日常生活の中で親御さんと話しながら、種を配って、家庭でもどうですかみたいな取り組みをしても良いと思います。土地が空いてくる中で、公民館長主導で、みんなで耕す企画も今後の展開としては非常に一つ大きなものであると感じました。

市長

農薬の話がありました。その辺はこれからテーマとしては大事な部分です。子どもたちは、ほとんど無農薬でやっています。これからの姿を考える時に、健康の観点から、自然農法的な手段が、大変だけれども安全だということも一つの学びの場として提供していくこともありだと思います。

5年間、同じことの繰り返しということは全く当てはまらず、1年生から始めて、だんだん成長していく過程の中にそういう場があるので、率直に、低学年、高学年、あるいは中学生、やっぱり到達点はこんなところに求めたい、ということもある程度この5年間の学びの中で明確にして、議論していくことも一つかなと思いました。体験をしないと知らないことも多いと思いますので、そういうことも学んでいくことも大事だと思います。

教育委員

暮らしのなかの食ということで何年もやっているわけですが、どういう背景で始まったのか、内山先生のお考えということも最初は全然わからなかったのですが、内山先生の講演をお聞きして、だんだんわかってきました。

内山先生の話では、江戸時代までは家族だけで行ってきたのではなく、地域の労働共同体、地域の人たちが一緒に仕事していた中で、農業は生みの親と育ての親が手伝っているとのことでした。

その後、核家族化して子どもと地域の人との関係が薄れた中で、一緒に農作業をする、食べ物を作ることが、一つの繋がりを取り戻す機会だということがようやくわかりました。その中で、継続してやっていくことがいいと思いますし、自分たちで作ったものを食べることで、そういった効果がでると良いと思います。

私の子のクラスでは、鶏とかウズラを飼っていますが、飼っていた鶏が行方不明になったり、死んだり、車にひかれたり、そういうものに非常に敏感に反応するという中では、農産物を食べるだけではなくて、生き物を食べるという事、かなり刺激は強いのですが、しかし命の繋がりという意味では、そういったテーマがあっても良いのかなと思います。

食の大切さを大事にする一方で、朝食を食べてない子が多いということは、そちらをもっと教育といいますか、自分たちで作って食べることも大事だけでも、買ってでもいいから、ちゃんと朝食を食べるということも大事と思いました。

市長

朝食を食べない中学生が多くいるけれども、健康や体というように考え時に、こういったところも暮らしのなかの食である年代のときにはきちんと教えていくことが大事かもしれない。肉にしても焼くだけで高い肉が売ったり、魚は骨を取って切って売ったりしているので、魚が死ぬ、屠殺（とさつ）する場面を知らないこともあります。そういうところをどこまで教えていくのか、どこまで学びの中で踏み込んでいくのかについても一つのテーマになると思います。

では、次のテーマもありますので、暮らしのなかの食は5年経過して、これから先またよく話をしながら次につなげていくようお願いします。

5 閉会

教育次長

馬場教育次長

ありがとうございました。時間になりました。話がありましたことを実行に移すことはすぐにしまして、研究することは研究をしてまいりたいと思います。

それでは以上をもちまして第4回の総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。